

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200339		
法人名	有限会社 在宅介護お世話宅配便		
事業所名	有限会社 在宅介護お世話宅配便 グループホーム お茶ばたけ町田		
所在地	佐賀県唐津市町田1872-11		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	平成29年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成28年12月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、畳の生活を基本とし、ベッド等は使わない「地べたからの介護」に取り組む事で、普段の生活の中で自然と全身の筋力やバランス感覚の維持が出来るだけでなく、お客様にご自身の意志で出来る事を長く保って頂くとするケアをはじめ、転倒防止にもつながっています。そして、趣味活動の一環でもある「茶ばたけ合唱団」による手話や合唱等日常的活動や発表会の中で舞台へ立つ機会を通して「楽しみや喜び」が増え、精神的安定と生活の活性化、お客様同士の関係作りへと大きな成果となっています。他に、日課のラジオ体操・お客様考案の天突き運動を行い、足裏マッサージを取り入れ健康状態の把握をしております。設備として掘りごたつや薪ストーブが特色です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県南部の市街地に位置し、近くには公園や総合病院もある等の環境に位置している。法人全体で”地べたからの介護”に取り組み、ホーム全体が畳敷きであり、あえて手すり等を設けず、入居者各々の残存能力に着目したケアが実践されている。”一日に1回は靴を履く機会を”という事で、玄関を入ると広い土間作りとなっており、冬場は薪ストーブがたかれ、ゆっくりくつろげる空間作りがなされている。できるだけ外へ出る機会も持つよう努められ、日常の買い物やドライブ以外でも外食の機会や県外へのミニ旅行等が行われている。入居者や家族の思いに寄り添い、本人本位の支援が出来るよう日々努力されているホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【関わり合って育ち合おう】をスローガンとした会社理念を施設内に掲示し、常に目につくようにしている。また、定期的にスタッフ勉強会を行い、会社理念の輪読を行っている。	法人の理念を管理者及び職員全体で共有し、日々のケアに活かすよう努められている。理念は毎月の勉強会の折には全体で唱和し、ホーム内の目につく所に掲示され、日々振り返り、確認する機会も持たれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所への店舗で買い物したり、清掃活動や地域の行事への参加や施設の行事への参加を呼び掛けている。	地域の清掃活動、夏祭り等にはホームからも積極的に参加し、コーラス・オカリナ演奏等地域からのボランティアの受け入れも継続的に行われている。日々の買物の折には友人、知人に会う機会も多く、日常的な交流がはかれる様努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域会議の中で、認知症の症状、支援方法だけでなく、高齢者虐待の実践や感染症の予防等、資料を基に説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を行い、事業所から報告事項や地域からの意見について話し合いを行っている。話し合った内容については、スタッフ会議等で報告し、日常ケアに活かしている。	ホーム行事の報告、地区役員よりの地区行事の紹介、意見の交換等々が定期的に行われている。会議の内容は毎回記録にまとめ、参加できなかった家族へは会議録が送付され、何時でも誰でも見られるようホーム内にも置かれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者等へ運営や制度に関する疑問点をその都度確認する事で、連携を取っている。	運営推進会議への毎回の出席、ホームの空き情報の報告等々と定期的な関わりその他、必要に応じ相談、質問等は随時行われている。日頃から協力体制が築かれ、相談しやすい関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や社内研修において知識の習得に努め、身体拘束を行わない。また、施設内に身体拘束の指針を掲示し、常に目を通す様になっている。	外部への研修、法人内部での研修等で、身体拘束がどういったものであり、どういった弊害をもたらすのかといった事を知識として学ぶ機会が持たれている。また、日々のケアの中でも気になる事があれば、随時指導助言が行われている。現在玄関の施錠を含め拘束は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や社内研修において知識の習得、道徳性の向上に努め、虐待を行わない、さらに、虐待が見過ごされない様に防止に努めている。また、日々のケアの中で、常にお客様を敬う態度、言葉遣いを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ成年後見制度を受けている方はいない。職員は外部研修や社内研修において知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にお客様並びにご家族へ十分な説明を行い、不安や疑問等に答え、理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様との日々の関わりの中で、意見や苦情を徴収できる様に努めている。収集、聴取できた意見は職員全員へ伝達・共有し、改善策を講じている。	面会時、電話での状況報告時等、できるだけ個別に話をする機会を設け、意見、要望の収集に努められてる。出された意見等に対しては、迅速に対応するよう努力され、申し送りノートにて職員全体で共有されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から気軽に意見や提案をできる様な関係作りに努めており、会議等の中において意見や提案を聞く様にしている。また、就業時間以外にも機会を設け反映させている。	毎月の会議の他、職員全員の意見が聞き取れるよう、個別での聞き取りが行われている。また、“ありがとうカード”を取り入れ、お互いの良い所を認め合い、前向きに仕事に取り組めるよう工夫されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、処遇に反映させる様にしている。また、給料支給時に管理者が給料明細を手渡し、相談や悩みを受ける機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回の会社内勉強会を設け、ロールプレイ等により、職員全員の知識、技量が高まる様な取り組みを行っている。また、幹部研修会、外部研修会も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会参加や施設の視察者・実習生を受け入れ、会社内の他事業所との交流を持つ事で、職員の研修並びにサービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人及び家族との面談を数回 行い、本人や家族等の想いや要望を把握す る様に努めている。また、合わせて当事業 所についての説明を行い、安心して利用で きる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入居前には本人及び家族との面談を数回 行い、本人や家族等の想いや要望を把握す る様に努めている。また、合わせて当事業 所についての説明を行い、安心して利用で きる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族、担当の介護支援専門員等 からの情報を基に本人、家族を含めて関係 者と話し合い、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会社理念に掲げている【関わり合って育ち合お う】に基づき、相互関係に努めている。掃除や洗 濯物たたみ、調理・盛り付け等と一緒に行っ たり、活動等の経験談の傾聴により、作業のポ イントや処理方法等多くの物を学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族も介護者の一人であるという説明を行 い、家族会等、会社・事業所・地域行事への 参加を促し、職員と共に本人を支援していけ る様に協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ定期的に便りや写真を送付したり、 希望時には電話等により連絡をとれる様に 努めている。また、ご自宅への外出の付き 添いも行っている。	馴染みの美容室の利用、法事への参加、自 宅や実家周辺へのドライブ等が行われてい る。また、家族・友人が面会しやすい雰囲気 作りに努め、これまでの関係が途切れないよ うに日々工夫されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	個々の状態を理解・把握し、一人一人が家族の 一員としてお互いを支え合う関係になれる様、さ りげなく職員がサポートに入れる様に努めてい る。職員だけでなく誰かが傍らにいてくれる安心 感が生まれる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係を必要とするしないに関わらず、在宅支援センターや他のサービス事業者との連携により随時連絡、相談が受けられる様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思いや言葉を傾聴し、関わり合う事で把握・実現できる様に努めている。家族からも以前の生活状況等の情報収集を行い支援につなげている。	家族からの情報や日常会話の中から得た情報により、入居者の思いや意向の把握に努められている。食事や入浴支援の折の個別での会話の中から、できるだけ思いを聞き出す様な声掛けがなされている。言葉での聞き取りが難しい場合は、サイン等を見逃さず、できるだけ思いに寄り添えるよう配慮されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族との面談を行い、関係者からの情報と併せてお客様についての把握を行う。また、入所後においても本人や家族との関わりや日頃のケアの中から随時情報を取り入れる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から関わりを密に行い、何気ない仕草や言動からも状態が把握できる様に努めている。気付きを心掛け、日々の記録を基に、モニタリングやカンファレンスを行い、必要に応じ介護計画の追加・変更を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時は本人・家族より意見を伺い反映させる様にしている。また、職員全体により計画、モニタリングについて話し合い、作成している。	毎月の会議の中でモニタリングが行われ、3ヶ月ごとの評価も実施されている。状態に応じ、定期及び随時の計画の見直しが行われ、作成された計画は毎日職員が確認しケアにあたるよう、記録の様式等も工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様ごとに個人記録を作成し、日々の生活状況や状態の変化を記録している。職員間での情報共有を図り、介護計画作成・見直しの際の情報として活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望により、買い物や外出支援も行っている。また、手話を交えたり合唱団を作り発表する機会を設ける事により、喜びと楽しみを感じられる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクリエーション団体のボランティア慰問、地域の保育園園児の慰問活動を取り入れ、交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の往診や定期的な受診により、体調管理を行っている。緊急時は適切な指示を受けられる様に連携を取っている。	元々の主治医のもとでの受診、本人・家族が希望されればホームの協力医療機関での往診等が行われている。専門医の受診の際はホームでの対応し、適切な医療が受けられるよう努力されている。また、訪問看護とは24時間連絡対応が可能な連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	会社内の看護師や受診・往診に関わらず、随時主治医または看護師への相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医との相談により状態把握に努め、事業所での生活状況や環境整備、医療連携体制等を相談した上で、早期退院を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、書面により説明を行い、状態の変化に応じて適宜、家族やかかりつけ医との話し合いを行っている。職員全体で勉強会の開催により共通理解を行っている。	入居時にホームの方針を説明し、本人、家族の意向が確認されている。また、終末期を迎えられた際には、再度意向の確認が行われ、書面にて同意もとられている。家族、主治医、訪問看護、ホーム職員とが思いを一つにし、最期の見送りも含め支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画の中に「緊急時対応」を取り入れ、訓練を行っている。マニュアル、緊急連絡網を活用できる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難・消防・通報訓練・避難経路の指示、消防設備の定期点検を行っている。訓練時には、消防署の立ち合いで助言を頂いている。今年度は10月に実施し、後一回を予定している。近隣には特に夜間火災時の協力をお願いしている。	定期的な避難訓練が実施され、避難誘導の訓練、緊急時の持ち出し品についても一人ひとり用意がなされている。また、夜間想定での一人での避難訓練の実施、他の災害についてのマニュアルについても整備は十分とは言えない。	他の災害についてもマニュアルを整備し、職員全体で把握しておくと共に、夜間想定の一人体での避難誘導や、近隣住民を巻きこんでの訓練の実施等、協力体制の構築が次のステップとして望まれるところである。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、お客様への言葉遣いや個人情報取り扱いには十分に配慮している。また、個人情報保護については、書面による説明、同意を得ている。	入居者の尊厳を大切に、言葉遣いや対応の仕方等、お互いに注意し合い、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう配慮されている。特に排泄や入浴の声掛け等は、職員のペースにならず、プライバシーが守られるよう工夫されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の自己決定を尊重し、実践できる様に関わりを密にし、職員による説明や必要な支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	馴染みの生活を継続できる様に、一人一人のペースに合った時間が流れる様に配慮しており、随時お客様の希望に添える様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日一回は必ず鏡を見て頂く様にしており、お客様が主体となり時候に合った衣服等の身だしなみを行う事ができる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や好物を会話の中から伺ったり、季節にとれる旬の物を伺ったりし、献立に取り入れている。食材の買い物、調理、配膳、後片付けを職員とお客様と一緒にしている。また、職員も同じ食卓と一緒に食事をしながら見守りを行う。	料理のつぎわけ、配膳、下膳というように、入居者の能力に応じた活躍の場が設けられている。職員も同じ物を同じテーブルで摂り、さりげない支援が行われている。ホットプレートや卓上コンロを活用し一緒に作る楽しみを共有したり、外食の機会も多くもたれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様の状態に合わせ、食事量や水分量の把握・調整を行っている。また、職員も同じ食卓と一緒に食事をしながら見守りを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に適した口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表の作成や本人の排泄のサインの把握により、自立排泄の支援やおむつ外しを行い、またはおむつやパットの使用を最小限にし、時間ごとにさりげなくトイレへ誘導している。本人の不安や羞恥心、プライバシーへの配慮を心掛けている。	入居者それぞれの排泄のパターンを把握し、タイミングを見ながらトイレでの排泄支援がなされている。オムツやパットに頼らず、サインを見逃さないことで、トイレでの排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての理解は施設勉強会を通じてできている。また、食事並びに水分の摂取量の把握に努め、日常生活の中で適度の運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日入浴ができる様に対応している。また、お客様の生活習慣や希望に添える様に対応している。寒い時期や就寝時には足浴も行っている。	入浴はお茶風呂が毎日提供され、入居者の希望に応じた時間や順番に対応されている。拒否がある場合も、時間をおいて声掛けする等、入浴が楽しみなものとなるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課にとらわれる事なく、起床時間や就寝時間、昼寝等できる限り本人のペースに合わせたお客様本位の生活を送れる様にしている。夜の安眠の為に、天気の良い日は外でのラジオ体操や散歩で外気浴を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を資料化する事で随時閲覧把握をする様にしている。また、服薬の確認、症状の変化の確認、効能の確認を随時行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の生活習慣や馴染みの事を取り入れ、本人の能力に合わせた支援を行っている。また、季節ごとの行事や外出で楽しく気分転換ができる様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて、散歩や戸外活動を心掛けている。お客様の希望に合わせて、出来る限り自由に外出ができる様にしている。	毎日靴を履き出かける習慣を大事にされている。朝はホーム近くの公園でラジオ体操を行い、散歩や買い物等で、出かける機会を持つよう工夫されている。ドライブ、季節の花見等、入居者の希望に応じた外出支援も行われ、年に1回は遠出のミニ旅行も実施されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に本人の能力に合わせて管理を行っており、必要な時には随時使える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望に随時対応している。年賀状はできる限り本人に書いて頂く様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームは常に天窗からの自然光が差し込み、寒い時期には土間に集まり薪ストーブで暖をとりながら会話を楽しめる様になっている。また、リビングルームは掘りごたつとなっており、畳に座って落ち着ける様になっている。	毎日1回は靴を履く機会を設けるよう土間を作り、冬場は薪ストーブがたかれ、暖を取りながら入居者がくつろげる様に工夫されている。リビング全体が畳敷きであり、季節の飾りつけや行事の写真等が飾られ、会話が弾むような空間作りに努められている。温度・湿度・照明等についても職員が随時調整が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様の状態に合わせ、土間のベンチや畳にて個々がのんびりと寛ぐ事ができる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には、使い慣れた家具を持ち込んだり思い出の品を飾る事により、馴染みの空間を作れる様にしている。	持ち込みに制限はなく、入居者それぞれが使い慣れた家具や好みの物等が持ち込まれ、安心して居心地よく過ごせるよう支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は必要のない段差を解消し、死角をできる限り減らし、安心して能力を発揮できるように配慮している。居室前にはお客様本人の写真を飾る等、各自に居室を間違えない様に工夫している。		